

氏名	今 治 玲 助
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3638号
学位授与の日付	平成13年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	Rectal Mucosal Biopsy Compared With Laparoscopic Seromuscular Biopsy in the Diagnosis of Intestinal Neuronal Dysplasia in Children With Slow-Transit Constipation. (小児Slow-transit constipation におけるintestinal neuronal dysplasiaの診断における直腸粘膜生検と腹腔鏡下漿膜筋層生検の比較検討)
論文審査委員	教授 辻 孝夫 教授 田中 紀章 教授 岡田 茂

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

目的: Intestinal neuronal dysplasia(IND)は治療に抵抗する慢性便秘の原因として挙げられるが、未だ議論すべきところが多い。今回我々は結腸生検における substance P(SP)活性の低下と直腸粘膜生検の組織化学検査との比較検討をおこなった。

方法: 治療抵抗性の小児慢性便秘 50 例に対し直腸粘膜生検にて乳酸脱水素酵素に対する染色を行った。そのうち 32 症例に対し腹腔鏡下に漿膜筋層生検を行い、蛍光免疫染色にて SP 免疫活性の検討を行った。

結果: 4 例が IND と診断され、その 4 例を含む計 15 例において SP 免疫活性の低下を認めた。巨大神経節と SP 免疫活性の低下には有為な関連が認められた。

結論: この結果により結腸の SP 免疫活性の低下は slow-transit constipation の診断的指標となり得る可能性がある。そして IND は SP 免疫活性低下を示す一群の一つのサブグループであると推測される。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、治療に抵抗する慢性便秘の原因の一つとして考えられる Intestinal neuronal dysplasia (IND) について研究したものである。研究は、治療抵抗性の小児慢性便秘 50 例に対し直腸粘膜生検にて乳酸脱水素酵素に対する染色を行うと共に、蛍光免疫染色にて SP 免疫活性の検討もやり、巨大神経節と SP 免疫活性の低下には有為な関連が認められたとの興味ある成績を得ている。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。